

令和7年度 第2回 知立市環境審議会 議事概要

- 1 日時 令和8年2月5日(木) 午後2時から午後4時45分
- 2 場所 知立市役所3階 第2・第3会議室
- 3 出席者及び欠席者
 - (1)出席者 会長、副会長、委員6名
 - (2)欠席者 委員2名
 - (3)事務局 市民部長、環境課長補佐兼ゼロカーボン推進係長、環境課長補佐兼ごみ減量係長、環境課主査2名、環境課主事1名、中日本建設コンサルタント3名

4 議事

(1) あいさつ

(2) 議題事項

- 議題事項1 第3次知立市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況と達成度の把握について【資料2】
- 議題事項2 第4次知立市一般廃棄物処理基本計画策定に伴うアンケート調査結果について【資料3-1】【資料3-2】
- 議題事項3 令和8年度知立市環境保全・地球温暖化対策事業計画について【資料4】
- 議題事項4 令和8年度知立市一般廃棄物処理実施計画について【資料5】

(3) 報告事項

- 報告事項1 第2次環境基本計画後期実施計画(2024年度実績・2025年度取組予定)について【資料6】
- 報告事項2 知立市エコプラン2024年度(令和6年度)実績報告について【資料7】
- 報告事項3 知立市エコプラン(改定版)の改訂について【資料8-1】【資料8-2】
- 報告事項4 資源とごみの分け方出し方ガイドブック改定版について【資料9】

(4) その他

【議題事項1に関する主な意見・質疑応答】

- 委員 資料5ページの目標値について、家庭系ごみが2015年度実績比で7.8%以上減、事業系ごみが15.2%以上減などとされているが、これらの数値をどう設定したのか確認したい。
- 事務局 家庭系ごみは、第3次知立市一般廃棄物処理基本計画改定版にある令和3年度実績を基準に、令和8年度までにさらに2.5%減らす目標を置き、その積み上げを平成27年度の実績と比較した結果として整理している。

- 委員 説明についていけなかった部分があり、43 ページの 7.8%がどの計算で出てくるのかが分かりにくいのではないか。
- 事務局 確認したいのは、もともとの 7.8%の根拠でよいか。
- 委員 そのとおりである。
- 委員 7.8%の根拠は調べて回答することとし、次の質問へ進めたい。
- 委員 目標値として複数の数値が並んでいるが、どれも算出方法が分かりづらくなっている。
- 事務局 リサイクル率 16.2%について回答する。以前は刈谷知立環境組合クリーンセンター由来の溶融スラグを路盤材等に活用していたため、知立市のリサイクル率が 20%近くまで高かった時期があったが、価格高騰やリサイクル先の変化等で溶融スラグのリサイクルがなくなり、リサイクル率が下がった経緯がある。平成 27 年度のリサイクル率 16.2%は、溶融スラグ活用以前の水準であるため、まずはそこへ戻すという考え方で目標値に据えた、という整理である。
- ごみ減量目標は当初、国・県の目標値を踏まえて設定していたが、計画の進展に伴い、実績値を基準として 2.5%削減を段階的に上乘せする形で見直し・更新してきた。その結果、実績の示し方としては平成 27 年度比で 7.8%削減となっている。
- 委員 理解した。
- 委員 意見を踏まえつつ、計画の策定を進めてください。第 4 次計画策定に伴うアンケート結果の説明へ移る。

【議題事項 2 に関する主な意見・質疑応答】

- 委員 アンケート結果を施策に活かすというが、具体的にどう活かす考えなのか知りたい。
- 事務局 例として古布回収では、資源として出されず可燃ごみになっている実態があり、「分別する必要があることを知らなかった」という回答が多い。したがって古布に対する施策としては、広報・周知の強化に重点を置いて進めるといった形である。
- 委員 汲み取り式や単独処理浄化槽を合併処理浄化槽へ転換した方がよいという話で、補助金があれば転換するという回答もあるが、環境面以外のメリットを市民にどう説明すると伝わりやすいのか。
- 事務局 法制度上、汲み取りや単独処理の新規設置はできず、新築は合併処理浄化槽か下水道接続が基本となる。単独処理ではトイレ以外の生活雑排水（風呂・台所等）が未処理で河川等へ流れる形になるが、合併処理浄化槽や下水道接続で浄化が進むことで水環境が改善し、排水路の臭気や泡立ちが減って、生活環境が良くなる点をメリットとして伝える考えである。
- 委員 「合併」を戸数が集まる意味だと勘違いしていたが、家の排水を一緒に処理する方式だと理解した。一方で、単独浄化槽の人は建て替えでもしない限り、わざわざ合併へ転換しないのではないか。

- 事務局 新築は合併が必須であるが、既存の単独から合併へ変えるのは工事面・費用面のハードルが高い。そこで補助金を設け転換を促しているが、知立市に限らず全国的にも難しい課題である。
- 委員 下水道が通っていない地域で新築し浄化槽を入れたが、将来下水道が整備されたら浄化槽が不要になるのではないかという不安がある。
- 事務局 環境面では下水道接続が最も望ましいが、下水未整備地域が現に存在するため、整備を進めつつ段階的に対応していく必要がある。新築は制度上合併浄化槽となる一方、単独処理は生活雑排水が未処理で流れやすく環境負荷が大きいため、本人の体感は小さくても合併への転換をお願いしている。
- 委員 単独処理と合併処理の違いは初めて分かった人もいるはずで、用語も含め説明を丁寧にすべきである。
- 事務局 アンケートでも「何を言っているか分からない」という声があり、職員自身も配属後に理解した面があるため、県の方針も踏まえて周知を強化したい。
- 委員 自宅が単独か合併か分からない人もいるのではないか、という不安がある。
- 委員 合併は年1回の法定検査に加え、保守点検もあり費用がかかるのではないか。
- 委員 下水接続も同程度の費用がかかり得る。合併浄化槽でも性能が上がっており公共下水と比べても環境面で大きく劣らず、費用差も大きくないと思われる。
- 委員 合併浄化槽は法定検査があり、結果として二重にお金を取られているように感じる。
- 事務局 法定検査は法令に基づき実施が必要である。
- 委員 検査と点検が2か所から来るように見え、なぜ2回支払う形になるのかが分かりにくい。
- 事務局 浄化槽法に基づく検査（定期検査）と、許可事業者による清掃は役割が異なっている。分かりづらい点であるため、周知徹底を図りたい。
- 委員 古布を可燃ごみにする理由として「汚れている」があるが、汚れの判断は人によって違い、どこまでなら資源として出せるのか迷う。身に着けるものなので人目が気になり出しにくい人もいるかもしれず、明確な基準を示し集積所に掲示するなどすれば可燃ごみに回る量が減るのではないか。
- 委員 対象は下着のことか。
- 委員 下着に限らず衣類全般であり、出せる範囲が分かるようにしてほしい。
- 委員 洗濯しても汚れが取れない場合に可燃ごみに出している。
- 委員 判断が人それぞれになっているため、基準を明確にすべきである。
- 事務局 破れているものは不可で、洗濯済みで着なくなった程度ならリサイクル可能という整理である。ただし虫食い・ダメージ・シミなどは難しい場合がある。
- 委員 線引きを明確にし、知らせ方まで行政で考える必要がある。

- 委員 セーター等も部分的に使えそうに思え、どこまで細かくリサイクルする
のか疑問がある。
- 事務局 業者は細部までリサイクルしないのが実情で、もったいない場合にウエ
ス化の可能性はあるが、基本は破れ・汚れがあるものは不可である。
- 委員 「まだ着用できるもの」という定義が曖昧で分かりづらい。
- 事務局 線引きの方向性を定めたうえで、分かる形で周知したい。
- 委員 アンケート回答者が4,700人と多いが、前回と比べるとどうか。
- 事務局 前回計画時と比べても、また総合計画等と比べても多い結果となってい
る。
今回の増加はLINE回答が圧倒的に多いことが要因である。
- 委員 事務局の努力か環境意識の向上か、どちらが要因と考えるべきか。
- 事務局 LINE登録者が約95,000人おり市内外の区別は難しいが、LINEで依頼
したところ2日で約2,000件集まったため、LINE活用の効果が大きいと
考えられる。
- 委員 冒頭に「5分くらいで終わる」と書いてあったことも、回答しやすさに
つながったのではないか。
- 委員 周知してもアンケートを知らない人がいるのは、自分とは関係ないと考
えている可能性があり、媒体に流すだけでなく周知の仕方を工夫すべきで
ある。小中学生がプラ分別変更を知らない結果もあるが、一般への周知は
どうなっているのか。
- 事務局 市民アンケートでは「知っている」50.5%、「知らない」49.5%で概ね半々
である。
- 委員 残り5割への周知が課題である。
- 委員 プラごみ袋が青色に変わったことを今日初めて知った。
- 委員 昨年度の審議会で決めた事項であるため、知っているべき事項ではある。

【議題事項3に関する主な意見・質疑応答】

- 委員 保全事業1～6が例年通りとのことだが、例年と違うものはあるのか。
- 事務局 変更はなく例年通りである。
- 委員 地下水域が1地点となっているが、地点はどう決めたのか。
- 事務局 県の指定であるため、市として「なぜそこか」の説明は難しい。
- 委員 1地点で足りるのか不安である。
- 事務局 現状は1地点で問題なく実施できている。
- 委員 他市町村はどうか。
- 事務局 他市町村の状況は即答できず、規模にもよる。
- 委員 愛知県では名古屋より西側に地盤沈下が顕著な地域がある一方、西三河
圏ではこれまで顕著な地盤沈下は見られていないという認識であり、県
HPに状況が掲載されている。
- 委員 クーリングシェルターは今年も実施するのか、実施場所は広報されるの
か。

- 事務局 令和7年度の実施箇所を継続し、更に企業にも声をかけて増やしたいと考えている。また、場所が決まればHPで公表する。
- 委員 決まり次第発表してほしい、企業の宣伝にもなると考える。
- 委員 地域猫の不妊去勢手術補助について、術後に地域で面倒を見る条件はハードルが高く、猫嫌いの存在や世話する人が標的になる懸念もあるため、申請のハードルを下げられないか。
- 事務局 ハードルを下げる方法は検討していきたい。
- 委員 猫は居場所をコントロールしにくく、具体的な対策はあるのか。
- 委員 数は減ってきているが区長会等で協力を得にくく、具体策が必要である。
- 事務局 申請は「地域で面倒を見る」形だが、特定の場所で管理するのは難しいため、手術後はその場で放す運用を考え、まずはそこまでの協力をお願いしたい。
- 委員 餌やりを行う人が標的になることを避けたい一方、適正に世話する必要があるという認識も広めるべきではないか。
- 委員 手術した猫は見分けられるのか。
- 委員 耳カットで目印がある。
- 委員 飼い猫との区別がつきにくい懸念がある。
- 委員 耳カット自体の周知が必要で、識別番号などで区別できるとよいのではないか。
- 委員 かわいそうで餌をあげてしまうと、未去勢猫が生き延び増える可能性があり、難しさがある。
- 委員 清掃活動で墓地のお供え物が猫に荒らされる事例があり対応したこともある。
- 委員 去勢できれば数は増えないので世話はしたいが、場所確保や地域の見守りが難しく、世話する人が標的になる懸念もあるため、去勢手術だけでも支援のハードルを下げてほしい。
- 事務局 承知した。地域猫の会にも情報共有を行う。
- 委員 水生生物調査を、子ども環境教育に活用できないか。
- 委員 以前は夏休みに企画があったが安全確認など職員負担が大きく廃止した経緯がある。
- 委員 オオキンケイギク駆除は少し取っても減らないのではないか、効果はどうか。
- 事務局 毎年同じ川で開花前に高校生と駆除しているが、取れる量が減ってきており、効果を感じている。
- 委員 令和8年度の環境保全・地球温暖化対策事業計画案はこの内容で実施してよいか。異議なしで了承とする。

【議題事項4に関する主な意見・質疑応答】

- 委員 ごみ出しアプリ導入はどのような内容か。
- 事務局 分別収集日の表示、イベント通知、ごみカレンダーやガイドブックのデータ閲覧などを想定する。

- 委員 既存の「ごみチェッカー」や LINE 通知と機能が被らないか。
- 事務局 導入後は「ごみチェッカー」をアプリへ集約する予定である。LINE は誤配信があったため、より機能性の高いアプリで周知したい。
- 委員 費用対効果を考え、より多くの人に使ってもらう必要がある。
- 委員 プッシュ通知を使えば古布のリサイクル基準なども周知できるのではないか。
- 委員 リユースマーケットは、市役所開催の方が集客できるのではないか。講堂開催は、前回の屋外開催の反省（強風等）を踏まえた判断なのか。
- 事務局 前回の強風等を踏まえ、今回は初めて屋内で試す。
- 委員 2階まで上がるのは大変なため、集客面で厳しいのではないか。市役所にキッチンカーを呼べば良いのではないか。
- 事務局 キッチンカーを呼ぶ場合、市役所の敷地内が使いなくなるため、困難である。また、エレベーターも譲り合う形で使用可能である。
- 委員 一般廃棄物処理実施計画案については、問題はないか。異議なしで了承とする。

【報告事項 1 に関する主な意見・質疑応答】

- 委員 緑地率や 1 人当たり公園緑地面積が、基準値より下がる目標になっているのは、開発計画を織り込んだ数値なのか。
- 事務局 環境基本計画策定段階で設定した目標値に沿っているが、策定詳細は即答しづらい。
- 委員 緑地率の元はほかの計画の数値を参考にして、開発が進む現状では減少は一定やむを得ない面がある。
- 委員 生物多様性の観点では緑地面積の保全が最も効果的ではないか。
- 委員 緑地には田畑も含まれ開発で減るため、生物多様性とは相反し難しい問題である。

【報告事項 2 に関する主な意見・質疑応答】

意見・質疑応答は特に無し

【報告事項 3 に関する主な意見・質疑応答】

意見・質疑応答は特に無し

【報告事項 4 に関する主な意見・質疑応答】

- 事務局 燃えるごみ袋は白色から黄色へ変更し、表記は「燃やすしかないごみ」として分別意識を促す。小袋は 4 月頃から順次切替、大袋は在庫状況により年末近くまで白色が残る可能性がある。袋に「無事です」の文字を入れ、災害時の安否確認ツールとしても使える設計とする。
- 委員 「燃やすしかないごみ」という名称は他の自治体も使用しているのか。

事務局 同様の文言導入自治体は他にもあり、近隣では大府市、岩倉市、小牧市などがある。「無事です」という安否確認入りは、近隣では少なく先進的である。

委員 町内会によって安否確認の方法が異なるため、市としての周知が必要ではないか。

事務局 これだけに限定するのではなく併用となる見込みで、周知を進める考えである。

【その他に関するに関する主な意見・質疑応答】

意見・質疑応答は特に無し

(午後 4 時 45 分終了)